

1 教育目標

○本質を問い、本質を見極める力を養う

2 中期的目標

1. 広い視野と深い思考につながる授業展開と特色教育を行い、自ら考え行動できる生徒の育成
2. 明確な目標を持ち、積極的な進路選択につながる丁寧な進路指導とトップ進学校としての実績向上
3. 弛まぬ向上心に満ちた友好的な職場環境の整備
4. 選ばれる学校としての広報活動の実施

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見																								
① 学校評価 ■生徒のアンケートは年 2 回実施し、ほとんどの項目で高評価を得ているが、中学では要改善の項目はなく、高校では施設・整備に関して要改善項目としてあがっている。教育にかかわる施設・整備は充実しているため、経年劣化の部分への意見だと思われる。 ■保護者のアンケートは年 2 回実施し、概ね高評価であるが、施設・設備に関しては生徒と同様に要改善項目となっている。 ここ数年で体育館の空調整備、図書館、進路指導室、休養室、体育館の LED 化などのリニューアルを行い、昨年度は DX ハイスクール指定校に伴い視聴覚教室を ICT 機器により充実を図ったことに加え、本年度は関西ではほぼ導入されていないデジタル地球儀の導入を行った。 ② 授業評価 授業評価アンケートは年 2 回実施しており総合評価のポイントは下記のとおりである。2 回目に中学では下がり、高校では上がっているが基準となる 75 点は大幅に超えている。 <table><tr><th>中学</th><th>全体</th><th>教壇系</th><th>実技系</th></tr><tr><td>1 回目</td><td>84.5</td><td>84.0</td><td>85.3</td></tr><tr><td>2 回目</td><td>80.6</td><td>80.1</td><td>81.0</td></tr><tr><th>高校</th><th>全体</th><th>教壇系</th><th>実技系</th></tr><tr><td>1 回目</td><td>84.7</td><td>84.0</td><td>85.4</td></tr><tr><td>2 回目</td><td>85.8</td><td>85.4</td><td>85.1</td></tr></table> ③ 教育方針 具体的な教育目標に関しては概ね達成できた。 進路目標に関しては課題を残す結果となった。 募集目標に関しては、中学・高校ともに入学者数は昨年度より増加した。	中学	全体	教壇系	実技系	1 回目	84.5	84.0	85.3	2 回目	80.6	80.1	81.0	高校	全体	教壇系	実技系	1 回目	84.7	84.0	85.4	2 回目	85.8	85.4	85.1	① 委員会の体制 大阪公立大学教授・彼方町会長・彼方町副会長・保護者会会長・校長・教頭・主幹 2 名・事務長 ② 委員会の実施日 第 1 回 7 月 22 日（火）14：00 第 2 回 3 月 16 日（月）11：00 ③ 自己評価の結果に対する評価 1 回目は今年度の目標を中心にご理解いただき、2 回目は年度を振り返る形をとっている。概ね説明内容を肯定的にご理解いただいている。意見では下記のようなものが出た。 【1 回目】 ○高 3 文系選択者が多いのは数学を苦手とする生徒が多いからか。 ○大阪公立大の森之宮キャンパスは今年度初めてで美しい。 ○京大・奈良先端科学技術大などとの交流ができるのではないか。 ○NASA からのインドの研究者の話を聞くことができる。 ○内部生・高校入学生をクラスで混ぜた良さは何か。 ○中学から生徒を集めるのがよいのではないか。 ○挨拶もよくしてくれて、まじめな生徒が多いと感じる。 【2 回目】 ○地域の会合で初富の変化を伝えていくために月一の会合への資料をいただければと思う。 ○大阪市での入試説明会に学校が呼ばれることはないのか。 ○公立大教授から、連携企画で北川智子（ラ・トローブ大学で宇宙教育の専門家）先生を紹介できる。 ○大阪公立大学は授業料無償化の影響もあり、次年度オープンキャンパスを実施しない方向である。
中学	全体	教壇系	実技系																						
1 回目	84.5	84.0	85.3																						
2 回目	80.6	80.1	81.0																						
高校	全体	教壇系	実技系																						
1 回目	84.7	84.0	85.4																						
2 回目	85.8	85.4	85.1																						

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 授業・特色教育	(1) 教育目標「本質を問い、本質を見極める力を養う」の実現のための教育内容づくり	① 自ら学ぶ姿勢を養う日々の学びの充実（富読・Tonglish） ② 深い学びへの授業の質の向上のための対話型論証の推進 ③ 学びの拡充と実力養成のための放課後有効利用	① 日々の様子と英語リスニング偏差値の推移 ② 定期的な研究授業 ③ 国数英の偏差値推移	① 形骸化をなくす工夫を生徒会とともに実施し、良い形になりつつある。 ② 事前検討会・事後研修を含め学期に 1 回の研究授業と夏の公開授業の実施。 ③ 高 1・高 2 は年度末の偏差値で向上が見られた。高 3 は共通テストの難化に伴い、大学入試結果は厳しい結果となった。	① 朝夕の取り組みの形骸化を防ぐ ② 学校の特色として打ち出す ③ 実力向上のための内容の充実を図る

	(2) 授業方法の改善を図り次世代の教育方法を模索する	① D Xハイスクールの取り組みの強化 ② 探究活動の充実と「書く」ことの強化 ③ 対話型論証の授業方法の研究	① 施設整備とD X探究の授業の質の向上 ② 探究コンテストなどでの入賞と行事などで「書く」ことを設定できたか ③ 京都大学松下佳代教授の指導による事前討議・研究授業・事後討議を行う中で対話型論証の型を踏めているか	① 施設整備が整い、デジタル地球儀も購入できた。D X探究でデータサイエンスに生成A Iの利用を加味した公開授業を実施した。 ② 各分野での入賞者があり、「書く」機会も多く持てた。特にクエストカップでは全国大会で好成績を得た。 ③ 対話型論証の予定していた研究授業がすべて終了し、型を踏み、深い思考につながれるようになった。	① 高 3 のD X探究の授業を作り上げる ② 高校での論文完成の質を上げる ③ 対話型論証を教員全体に広める
2 進路指導	(1) 2026 年度大学入試の安定した進学実績と 2027 年度大学入試での飛躍的な向上に向けての進学指導の強化	① 難関大対策プロジェクトリーダー（NPL）により、飛躍的な実績向上に向けての取り組みを実施する。高大連携企画によりモチベーションを上げる。 ② 進路講演会・進路説明会・進路対策会議・出願検討会・NPL 会議の充実をはかり実績の向上と進路指導方法の継承 ③ 進路データ管理の徹底と経年比較による分析で長期的視野を持つ。 ④ 成績層の幅の広い高校 3 年の進学実績の向上	① 年間会議の回数と充実 連携企画は生徒の満足度 ② 冊子の作成 ③ 会議での分析報告 ④ 実績目標数 ・国公立大学 在籍者数の 30% ・医歯薬系 10 名 ・早慶上理関関同立 在籍者数の 50%	① 会議の予定回数と企画ともに、充実した内容で実施できたが、共通テストの難化により最上位コースの結果は厳しいものとなった。 ② これまでの進路指導の極意を形にすることができた。 ③ 会議での分析は過去・学年間・学校間の状況を把握しながら丁寧に行うことができた。 ④ 目標数値はどれも達成することができなかった。	・国公立推薦型入試の受験指導の強化 ・高大連携企画の更なる充実 ・担任・学年の進路指導とN P L の連携の強化
3 職場環境	(1) 明るい印象を与える職場環境を整える	① 段階的に施設内を LED 化 ② 空調・プロジェクターの段階的交換	① 計画的に整備していく ② 計画的に交換に入る	① 概ね整備完成した。 ② 一部交換できた。	・今後も段階的に実施
4 広報活動	(1) 入試広報の強化をはかり、定員確保と安定経営の回復を目指す	① 入試部の組織運営強化 ② 広報地域の重点化とフラッグや列車内広告・コミュニティ紙などの利用により校名変更の広報を強化する ③ 高校の入学金免除の特別奨学金制度の実施 ④ 教育内容の独自性の広報 ⑤ HP の計画的更新（学年分担・教室より・校長室より・Instagram）	① 入試部体制の整備 ② 入学者数の増加と入学者の地域の拡大 ③ 特別奨学生制度の利用数 ④ 説明会での内容に盛り込む ⑤ HP での閲覧数	① 主幹の入試部長兼務は機動力が上がったが負担も大きかった。 ② 中学・高校ともに昨年度より入学者数は増加したが、地域拡大には課題がある。 ③ 優秀生徒の入学がかなった。 ④ 近隣地域へは理解が進み入学者数につながった。 ⑥ 毎日更新を行い閲覧数の向上につながった。	・次年度は入試部長を任命する ・今年度の広報活動を強化し、大阪市・堺市からの入学者数の増加を図る ・文理学科への変更の広報を重点化する